

生まれも育ちも北川町の長瀬一己さん(63)は、2000年に北川漁協の組合長となつて通算16年目。国内有数の清流とたたえられる北川の豊かな生態系を守るため、先進的な取り組みを続けてきた。

その一つが「水を守る森を残そうかい」を合言葉に手掛ける雑木林の保護。樹木が根を伸ばし、土砂の流出を防ぐことで水の汚濁を減らしたり、腐葉土が栄養を川にもたらしたりする働きに注目し、漁協で林を借り上げた。

「川の魅力はじかに体験

北川漁協組合長

長瀬 一己さん



清流保全へ活動多彩

「しないと伝わらない」とマスのつかみ取り大会など数々のレジャーイベントを実施。アユの食べるコケが付きやすくするよう川床の石を磨く「マイストーン作戦」などユニークな市民参加型の企画も行っている。

いずれもが「川に親しんでもらい、保全意識につなげる一歩」と長瀬さん。「人が泳ぎたい、釣りをしたいと思えるような北川を残したい」と力を込めた。